職員による自己評価

A 環境・体制整備

- ・児童の人数に対して指導訓練室のスペースが手狭に感じる。

B 業務改善

- ・ミーティングや振り返りをする時間が足りない。情報共有や共通指導ができるようにしたい。
- ・研修が必要だと感じる。
- ・立案やプログラム内容に関しては、幅広いプログラムを展開できている。

C 適切な支援の提供

- ・利用者が来所する前後にミーティングで情報を共有し、支援において連携が取れている。
- ・時間帯の違う学校とはなかなか連携を取りにくい。区役所や相談支援専門員の方々とは日々連携が取れている。

D 関係機関や保護者との連携

- ・保護者とは送迎時や面談やお電話等で細かくご報告と聞き取りをし、信頼関係が構築されているが、指導員に差があるため改善していく必要がある。

E 保護者への説明責任

- ・指導員で差があるため、ロールプレイをするなど実践に繋がる練習をしていく必要がある。

F 非常対応

- ・マニュアルを作成し、業務を明確にし、緊急時に各自が冷静に役割を果たせるよう、訓練が必要。

保護者による評価

A 環境・体制整備

- ・子どもたちが身体的にも成長してきたため、手狭に感じるため、もう少し広さがほしい。
- ・バリアフリーは設置されていないが問題ない。

B 適切な支援の提供

- ・色々な企画があり、シーズンごとに違うので、子どもは楽しそうです。
- ・色々な体験を楽しみにしています。
- ・日によって対応する方で違いは感じます。

C 保護者の説明等

- ・相互の行き違いがないように、伝達手段の工夫（アプリなどの活用）を検討してほしい。
- ・保護者会等については、必要を感じません
- ・日々成長している変化と内容をもう少し共有できたら嬉しい。
- ・期待しています。

D 非常時等の対応

- ・訓練は必要だと思います。

E 満足度

- ・いつも細やかに子どもの様子を見てくださり、日々成長を感じることが出来、とても満足しています。

事業所内での分析

【共通点】

- ・数年通所している利用者が、現在成長とともに体も大きくなり、例えばダンスなど体を動かす活動内容によってはスペースが手狭に感じる
- ・プログラムに関しては、趣旨を設定し、軽度・重度の両方に対応できるよう工夫されている
- ・保護者会等については、早急な対応は必要ではない
- ・指導員のスキルアップに繋がる研修が必要
- ・保護者との連絡ツールの見直しと検討が必要
- ・非常時対応のマニュアル作成と定期的な訓練が必要

【相違点】

- ・大きな相違点は今回見受けられなかった

分析・検討してみたて…

事業所の強み

- プログラム内容の幅や行動範囲の広さ、創意工夫、満足度
- 保護者とのコミュニケーション量、信頼関係の構築
- アクシデントに対しての早急な対応と翌日からの具体案の提案と実施

事業所の改善点

- スペースを確保するために、小学生と中学生で分け2部制にし、一度に集まる利用人数を分散させ、スペースを広く使えるよう取り組んでいる
- 事業所内での研修を充実させスキルアップしていくことができるよう取り組んでいく
- 非常災害時における避難方法や対応の周知

事業所の改善への取り組み

- この1年、利用者の年齢、身長や体格、課題や活動内容等が変化してきているため、2部制にし、スペースの確保と、集団の中での各自の療育の提供内容を充実させていくことができるよう取り組んできた。引き続き2部制のスタイルを継続し、手応えと満足度を意識し、日々の療育に繋げていく
- 日々の療育方針や課題への指導方法の周知を徹底する
- 情報共有や連携のための発信の大切さを再考し、どのような形で発信していくことがベストなのかを指導員の意見を取り入れながら話し合っていき、実行する

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

- 日々、子どもたちの状況や配置指導員も変化してくるため、その都度の状況に合ったより良いサービスを提供することができるよう、様々な角度や分野で話し合い、継続的な実践と振り返りをしていくべきだと感じた
- 細かな情報もしっかりと共有し、趣旨・方向性・個人の課題が見える指導をしていくことができるよう、定期的な自己評価も欠かせないことだと感じた

事業所名 スイミーフレンズ石川町

担当者 三分一 美紀

職員による自己評価

A環境面

- ・今現在は問題ないが、今後の受け入れ児童によってはよりバリアフリー化の配慮が必要になると考えられる

B児童への支援内容

- ・児童の状況や季節に応じたプログラムが展開されている

C関係機関との連携

- ・学校や関係機関との連携は問題なく行えているので、継続していきたい
- ・コロナ禍のため地域交流を行えていなかったが、今後の情勢によっては少しずつ行っていきたい

D保護者への説明責任・信頼関係

- ・保護者とのコミュニケーションはしっかりと取れている

E非常対応

- ・避難訓練の頻度を増やし、万が一の際により適切に行動できるようにしていきたい

保護者による評価

A環境面

- ・多動なので多少窮屈に感じている
- ・狭く感じるが公園活動などで工夫されている

B児童への支援内容

- ・新しいものを取り入れたり、季節を感じる活動をしたり、とても工夫されている

C事業所からの情報発信

- ・活動の様子を写真や動画で見せてほしい
- ・ぜひ保護者参加型のイベントを開催してほしい
- ・連絡帳や電話でとても詳しく様子を伝えてくれて助かっている

D非常対応

- ・非常時対応については概ね問題なし

E満足度

- ・本人の特性をよく理解してくれていると感じるので、安心して利用できている
- ・子供だけではなく、親も楽しみにしている
- ・満足しているが、帰りの時間が遅くならないとなお良い

事業所内での分析

【共通点】

- ・プログラムに関して工夫をしながら立案、企画がされている
- ・保護者とのコミュニケーションはしっかりとれている

【相違点】

- ・大きい相違点は特に見受けられない

分析・検討してみても…

事業所の強み

- プログラムの立案、企画、準備等の体制
- 学校や関係機関とのスムーズな連携
- 保護者との信頼関係

事業所の改善点

- 避難訓練の実施回数の増
- 送迎時間の見直し
- 地域交流の実施方法の検討

事業所の改善への取り組み

- 避難訓練の実施回数を増やし、全児童、全職員が有事の際に落ち着いて行動できるよう繰り返し訓練していく
- 児童への負担を考え、よりスムーズにお送りできるよう送迎ルートと出発時間を見直す
- 月次ミーティングの中で、より地域に理解される事業所づくりを目指した地域交流方法を検討する

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

- 日々の連絡帳や送迎時の申し伝えだけではなく、些細なことでも直接保護者の方々と電話連絡を取らせていただくようにしたことで、よりお子様への理解を深められ、効果的な支援を行えるようになったと感じました。今後は安全面や送迎時間等を見直し、より安心してご利用いただける事業所にしていきます。

事業所名 スイミーフレンズ滝頭

担当者 遠藤 麻樹

職員による自己評価

A環境面

- 部屋のスペースやバリアフリーについて、一定基準を満たしていると思う

B児童への支援内容

- プログラム内容については幅広いものが提供されていると思う

C関係機関との連携

- 連携が取れていないわけではないが、より一層のスムーズな連携を図っていく必要があると感じる
- 保護者会等については、コロナの状況を鑑みて提案していく

D保護者への説明責任・信頼関係

- 保護者とは一定の信頼関係は築けているが、より良い関係性が築けるようやり取りをしていく

E非常対応

- マニュアル類の周知共有はスタッフの全体ミーティングで定期的に行われている
- 身体拘束について、やむを得ない場合というのを周知する必要がある

保護者による評価

A環境面

- 部屋の広さやバリアフリーに関して、概ね評価する

B児童への支援内容

- 子どもが毎日楽しんで参加している
- 専門性を持った職員は少なく感じるが、子ども達一人ひとりと向き合って接していると感じる

C事業所からの情報発信

- 保護者会等はコロナの影響か未実施
- 育児に関する助言がもらえるなら欲しい
- 送迎時などに丁寧な説明あり

D非常対応

- 定期的な避難訓練をしていることを発信してほしい

事業所内での分析

【共通点】

- スペースやバリアフリーに関しては、一定の基準を満たしている
- プログラムに関して保護者からの評価を得ている
- 利用している児童が楽しみに参加している
- マニュアルの周知や避難訓練の情報発信等、非常時の対応全般を意識して定期的な周知を行っていく

【相違点】

- 大きな相違点は今回見受けられなかった

分析・検討してみて…

事業所の強み

- 利用している児童が楽しみに参加できるような活動プログラムの内容
- 子ども一人ひとりに対しての丁寧な対応を心掛けているところ
- 保護者との信頼関係

事業所の改善点

- 非常災害時における避難方法や対応の周知の徹底
- マニュアル類の定期的な周知と、それに沿った対応の共有
- 職員の育成、専門性の獲得

事業所の改善への取り組み

- マニュアル等を職員に周知をし、対応を統一化していくとともに外部研修などへの参加も含めた人材育成も意識的に行っており、職員一人ひとりの専門性を深めていく
- 避難訓練については様々な状況を想定し、どんな職員でも対応できるようにしていく。実行した際は保護者への周知も発信していく

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

- 保護者が普段見えない事業所の様子を、いかにしてこちらが伝えていくかというところの重要性と、職員一人ひとりが自信を持って対応に当たれるように専門性を深めていく事がより良い療育の提供に繋がるのではと感じました。

事業所名 スイミーフレンズ本牧

担当者 経塚 治

職員による自己評価

A 環境面

- 環境、体制両面において特に問題はないが、今後必要に応じてバリアフリー化を図る可能性あり

B 児童への支援内容

- プログラムの立案をチームで行い、固定化されないよう展開できている
- 申し送りが不十分な日もあるので、徹底していきたい

C 関係機関との連携

- 関係機関との連携は問題なくできている
- 保護者との連携については、保護者によって最善の連携の仕方を考えていきたい
- コロナ禍が落ち着いてきたので、外部との交流も増やしていきたい

D 保護者への説明責任・信頼関係

- 保護者とのやりとりはできている
- 自己評価の周知方法を増やしてもいいのではないか(現状HPのみ)

E 非常対応

- 避難訓練の状況設定や頻度を増やし、万が一に備えていきたい

保護者による評価

A 環境面

- スペースは確保できている
- 職員体制が少なく感じた時があった

B 児童への支援内容

- 全体的に工夫されている
- 子どもがプログラムを楽しみにしている

C 事業所からの情報発信

- 連絡帳や送迎時にその日の様子をきちんと伝えてくれている
- 保護者同士の交流もあるとなお良いと思う

D 非常対応

- 非常時対応の内容について理解している

E 満足度

- 安心して利用できていて感謝している
- 困ったことを連絡帳に書けばスタッフが対応してくれ、子どもが納得できる答えを提供してくれたので助かっている

事業所内での分析

【共通点】

- プログラムを工夫しながら立案、企画し展開できている
- 保護者とのコミュニケーションはしっかりとれている

【相違点】

- 大きな相違点は特に見受けられない

分析・検討してみて…

事業所の強み

- 幅広いプログラムの立案、企画、展開
- 学校や関係機関等との連携
- 保護者との関係性

事業所の改善点

- 避難訓練の実施回数と想定の見直し
- 保護者どうしや外部との交流を増やす

事業所の改善への取り組み

- 避難訓練の発生状況を幅広く、実施回数を増やすことによって、非常時に落ち着いて行動できるようにしていく
- 保護者参加型の活動や、地域の方々との交流を考え、交流の輪を広げていく
- より良い支援とは何か、ということスタッフ全体で考え、実践していく

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

- 支援についての保護者からの印象は良く、ありがたさを感じるとともに、これに慢心せず子どもたち一人ひとりにとってより良い支援を目指すべく、ミーティングや子ども達についての話し合う時間を増やしていきたい。同時に、安全面の確保や確認の意味でも、避難訓練の拡充を図り、安全にご利用していただける事業所を目指していく。スタッフの向上する意欲を引き出すためにも、PDCA サイクルをうまく活用したい。

事業所名 スイミーフレンズ南区役所前

担当者 川崎 孝彬